

第17回 日本語教育夏期講座

—日本語教育の歴史を振り返る（中世編）—

対象：日本語教育に携わっている方、または日本語教育に関心のある方。

埼玉県内在住または在勤の方

目的：日本語教育についての理解を深める。

期日：平成30年8月3日（金）

会場：文教大学越谷校舎 3号館（3301R）

定員：30名

◆講義内容

講義①「15,16世紀の中国資料から見る日本語教育」

蔣 垂東（文教大学）

中国における日本語教育の歴史は15～16世紀に遡ることができます。中国資料と呼ばれる日本語史の研究資料の中に最古の日本語教科書『日本館訳語』が含まれています。この講座では、日本語教育史の立場に立って、当時の政府機関が編集した『日本館訳語』を紐解きつつ、当時の日本語教育がどのような形で展開されていたか、時代背景、教育制度、教科書の形態、学習内容などの観点から考察します。

講義②「韓国における日本語教育史」

権 景愛（韓国外国語大学校）

韓国の歴史の中で外国語教育は通・翻訳を担当する訳官を養成することに目的がありました。そのうち日本語は、中国語、モンゴル語、満州語と共に最も重要な「訳学」の一つとして教えられてきました。訳学のための教科書を一般に「訳学書」と呼ばれます。本講座では日本語教育のための訳学書の中でハングルで書かれたものを中心に幾つかを紹介します。当時の朝鮮の人々の目に映った日本はどのような国であったか、また、日本語や日本語教育の様相は現代のそれとどのように異なっていたかについて考えてみる機会となればと思います。

講義③「中世キリシタン資料から見る日本語教育」

宮武 利江（文教大学）

16世紀に日本にキリスト教が伝来したことは広く知られているが、ポルトガル人を中心とした宣教師たちがキリスト教の教えを日本人に伝えるため、日本語の習得に努めたことがわかる文献については、日本語史の分野以外ではあまり取り上げられることがないように思う。今回の講義では、これら「キリシタン資料」と呼ばれる文献をいくつか紹介しながら、16世紀末の日本語の状況と、それをヨーロッパ人がどのように学習・理解し、後続の宣教師たちに伝授しようとしていたのか、日本語教育の立場から分析してみたい。

平成30年度 文教大学

言語文化研究所 夏期講座

平成30年8月3日(金)

講座終了後、懇親会があります(参加費無料・軽食有)

	10:30~12:00	13:00~14:30	14:45~16:15
英語教育夏期講座	「フォニックスに頼りすぎない 音声教育」 小田 節子(金城学院大学)	「Producing questions is very hard. Really?」 Simon Evans(国際基督教大学)	「英語テスト結果の視覚化」 伊藤 隆(文教大学)
日本語教育夏期講座	「15,16世紀の中国資料から見る 日本語教育」 蔣 垂東(文教大学)	「韓国における日本語教育史」 権 景愛(韓国外国語大学)	「中世キリシタン資料から見る 日本語教育」 宮武 利江(文教大学)
中国語教育夏期講座	「漢字の意味」 徐 瓊(北京外国語大学)	「高校の中国語の授業を体験して みようⅡ」 星野 勝樹(伊奈学園総合高等学校)	「現代中国語における日本語から の借用語について」 王 岩(城西国際大学)
ヨーロッパの言語と文化 夏期講座	「ドイツ語圏の言語と文化—ドイ ツ語の授業をのぞいてみよう」 山川 智子(文教大学)	「Bonjour! Ça va? An Introduction to French」 グラヴィアニ・ジャン・フランソワ (文教大学)	「ドイツ語圏の成立」 梶谷 雄二(文教大学・兼)
書写書道教育夏期講座 A. 書文化コース 吉沢義和 (元文教大学文学部教授)	講義1 創作(1) 創作の手順	講義2 創作(2) 漢字の書を中心に 作品の構想を練る	講義3 創作(3) 構想をもとに試書する
書写書道教育夏期講座 B. 学校教育コース 豊口和士(文教大学)	学習指導要領概説(小中高)	実技(1) 基本的な用筆法・運筆法	実技(2) 漢字(楷書)

平成30年8月4日(土)



書写書道のみ2日間開催

	10:30~12:00	13:00~14:30	14:45~16:15
書写書道教育夏期講座	講義4	講義5	講義6
A. 書文化コース 吉沢義和 (元文教大学文学部教授)	創作(4) 小品(半切以下)を仕上げる	創作(4) 小品(半切以下)を仕上げる	講義 書の鑑賞の態度
B. 学校教育コース 豊口和士(文教大学)	実技(3) 漢字(行書)	実技(4) 平仮名・片仮名 ・漢字仮名交じりの書	実技(5) その他(葉書・隷書・篆書・仮 名など)

— お申し込みについて —

文教生参加費・資料代無料!

※事前の申込をお願い致します。

受講料: 無料 ※但し、資料代として500円
(書道のみ1,000円)を当日受付にて申し受けます。

申込締切: 平成30年7月18日(水)必着

申込方法: HPから申込可能です

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/genbun>

申込先: 〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337

文教大学大学院附属言語文化研究所

TEL: (048)974-8811(代) (内線2300)

FAX: (048)974-8012

